

令和4年度 中間自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>1 学びがあり進路実現できる学校</p> <p>①ICTを活用した授業を推進し、探究型授業の充実を図る。</p>	<p>* GIGAスクール校内研修</p> <p>* 探究型学習の互見授業（オンデマンドも活用）</p> <p>* 教科毎の探究型授業開発研究</p>	<p>授業でICT機器を活用した新たな探究型の学習を取り入れた教員の割合が</p> <p>A 80%以上</p> <p>B 60%以上</p> <p>C 30%以上</p> <p>D 30%未満</p>	<p>73.7%</p> <p>B</p>	<p>成果：「できた」「おおむねできた」と解答した教員が73.7%であった。iPadやchromebookの全員支給、全教室へのプロジェクター配置が完了しており、これらICT機器を活用した探究型の授業を取り入れている教員が大半であった。</p> <p>課題：授業や生徒の探究活動など、様々な場面におけるICT機器の活用法をより一層研究開発していくこと。</p> <p>改善策：GIGAスクール構想に基づく生徒1人1台端末の利用や、それらを活用した探究型の授業をさらに進めていく。また校内及び校外での先進的な取り組みの研修を行い、ICT機器を利活用した探究型の授業法の研究開発に継続して取り組む。</p> <p style="text-align: right;">教務</p>
<p>②「コア輪島」「夢道場」などの活動を通して、生徒が主体的かつ発展的に学ぶ姿勢を育成する。</p>	<p>* 夢道場でフォローアップ</p> <p>* コア輪島、生徒間の学び</p> <p>* スタサポの振り返り</p>	<p>模擬試験で英国数総合の平均偏差値45～50の層にいる生徒が偏差値50を超えることができた割合が</p> <p>A 50%以上</p> <p>B 30%以上</p> <p>C 10%以上</p> <p>D 10%未満</p>	<p>%</p> <p>A・B・C</p>	<p>成果：</p> <p>課題：1月に実施するアンケート結果により判断</p> <p>改善策：</p> <p style="text-align: right;">進路指導</p>
<p>③教員の受験科目指導力を高め、3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導の実践を図る。</p>	<p>* 教科内学習会</p> <p>* 互見授業</p> <p>* 補習の参観</p>	<p>シラバスや評価の観点等の活用と、教員相互の情報共有により、3年間を見通した指導ができた教員の割合が</p> <p>A 80%以上</p> <p>B 70%以上</p> <p>C 60%以上</p> <p>D 60%未満</p>	<p>68.4%</p> <p>C</p>	<p>成果：「できた」「おおむねできた」と解答した教員が68.4%であった。年度当初に生徒へシラバスを配布し、年間の指導については見通しを持って指導することができた。</p> <p>課題：進路実現に対応できる力や、学力を身につけさせる指導、授業案についてはノウハウを継承していく仕組みの構築が必要である。</p> <p>改善策：教科会議や授業見学を定期的に行うなど情報を共有する機会を増やし、教科の指導についても若プロを活用する。</p> <p style="text-align: right;">進路指導</p>

令和4年度 中間自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
2. 人間力を向上できる学校 ①「部活道」などの課外活動を通して、主体的で能動的に行動できる生徒を育成する。 ②学校行事を通して、よりよい人間関係を築き他者を思いやる心を育成する。 ③生徒一人ひとりが地域と関わる中で、積極的に自己研鑽する姿勢を育成する。	* 部活動 * ボランティア活動	自ら考え行動する場面を積極的に取り入れることにより、生徒の主体性が高まったと感じる顧問の割合が A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満	79.0% B	成果：部活動によっては、生徒が練習メニューの作成や休養日の設定をするなど、主体性が高まった生徒が多くなった。 課題：部員内で意思疎通ができず、思い通りに行動ができないことがある。その結果、主体的に行動することを戸惑い、できない理由を考える傾向がみられる。 改善策：できない理由を考えるよりも、「どうしたらできるようになるか」という前向きな思考をもたせるように指導することで、生徒の主体性向上を図る。 <div style="text-align: right;">生徒会</div>
	* 昼休みの放送 * 目安箱のオンライン化 * セタイベント * 文化祭 * クラス紹介動画作成・表彰 * 生徒議会	自己有用感や自己肯定感を高めることを意図して計画・実施された行事や取組の回数が A 10件以上 B 7件以上 C 5件以上 D 5件未満	6件 C	成果：行事の計画・実施を通して、前期生徒会役員を中心に、相手の立場に立って行動する場面が多くなった。 課題：輪高祭での生徒アンケートでは、自己有用感や自己肯定感を感じていないと答えた割合が32.9%である。 改善策：取組の回数を増やすだけでなく、より多くの生徒が行事に参加できるよう呼びかけをしたり、取組の改善点を明確にしたりしていきたい。 <div style="text-align: right;">生徒会</div>
	* 地域との連携事業	生徒が地域と関わる授業の取組や行事のうち、今年度再開あるいは新規に実施された件数が A 7件以上 B 5件以上 C 3件以上 D 2件以下	4件 C	成果：「輪島塗体験」「わじまティーンラボ」「下野農園との商品開発」「ジュニアアート」の4件が、再開または新規で実施された。 課題：コロナ禍において、地域との関わりに制限があることや、行事の実施自体が再開されていない。また、商業の教員数が減り、授業の取組において昨年度と比べて制限される状況が継続している。 改善策：現在の状況で難しい面は多くあるものの、10月以降に実施される予定の探究活動などを通じて、地域との関わる授業や行事の検討を積極的に行っていく。 <div style="text-align: right;">総務</div>

令和4年度 中間自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>3 地域と共に成長できる学校</p> <p>①「WAJI活」を中心に探究的地域学習を充実させ、地域貢献意識の向上と実践力の育成を図る。</p>	<p>* 「WAJI活」</p> <p>* 探究活動</p>	<p>「WAJI活」を通して、地域のために何かできるという意識が高まったと感じている生徒が</p> <p>A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満</p>	<p>%</p> <p>A・B・C</p>	<p>成果：</p> <p>課題：2月に実施するアンケート結果により判断</p> <p>改善策：</p> <p style="text-align: right;">総務</p>
<p>②輪島市主導の「高校魅力化プロジェクト」と連携し、将来にわたり地域を支える人材を育成する。</p>	<p>* 「WAJI活」</p> <p>* 探究活動</p>	<p>市との連携を通して、学習や探究活動に主体的に取り組む生徒が増えたと感じる教員の割合が</p> <p>A 50%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満</p>	<p>62.3%</p> <p>A</p>	<p>成果：高校魅力化プロジェクトの特別イベントとして、オンラインで各地の高校生と地域課題探究に関して交流を図るプログラムに参加する生徒もいる。また、2年生においては、高校魅力化プロジェクトのスタッフが、「総合的な探究の時間」の活動について支援にあたっている。</p> <p>課題：時間の捻出が容易ではないが、高校魅力化プロジェクトのスタッフと本校生徒との良好な関係性を構築する。</p> <p>改善策：高校魅力化プロジェクトのスタッフと本校教職員との連携をより円滑に行っていく。</p> <p style="text-align: right;">教頭</p>
<p>③小中学校との生徒間交流事業や教員研修をできることから再開し、「オール輪島」で生徒を育てる。</p>	<p>* 相互授業参観</p> <p>* 教科間交流</p> <p>* ICT機器の利活用研修会</p>	<p>校種間での相互授業参観や教科間交流、ICT機器の利活用研修会等に参加した教員が</p> <p>A 90%以上 B 70%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p>%</p> <p>A・B・C</p>	<p>成果：</p> <p>課題：2月に実施するアンケート結果により判断</p> <p>改善策：</p> <p style="text-align: right;">教務</p>

令和4年度 中間自己評価

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>4. 多忙化改善を積極的に実現できる学校</p> <p>①コロナ禍で制限された行事の規模、再開、廃止を検討し、業務の効率化と最適化を図る。</p> <p>②教員の意識改革と業務改善を図り、ワークライフバランスの実現を果たす。</p> <p>③タイムマネージメントを生徒に意識させる学習指導、課外活動指導の確立を図る。</p>	<p>* 学校内外の諸行事</p>	<p>廃止あるいは規模の適切な縮小化を図ることのできた行事等の数が</p> <p>A 6件以上 B 5件以上 C 4件以上 D 3件以下</p>	<p>4件 C</p>	<p>成果：現在までに、「自転車乗車マナー一斉指導（第1・2回）」・「PTA総務委員会」・ビジネスコースの「朝市販売実習」の計4件について、規模の適切な縮小化を行っている。</p> <p>課題：新規の適正化の件数が少ない。</p> <p>改善策：昨年度までに適正化された学校行事があるため、件数としてあまり増加していないが、10月以降に実施される行事について分析・検討を更に行い、業務の効率化・最適化を推進していく。</p> <p style="text-align: right;">総務</p>
	<p>* 月2回の定時退校日</p>	<p>教員一人あたりの月平均時間外勤務時間が昨年度より</p> <p>A 10%以上減少した B 5%以上減少した C 3%以上減少した D 3%未満の減少</p>	<p>2.4%増加 D</p>	<p>成果：8月までの実績では、教員一人あたりの月平均時間外勤務時間について、80時間を超える累計人数は11名から8名に減少したが、48.3時間から49.5時間に増加した。</p> <p>課題：主な時間外業務は部活動指導である。特に対外的な活動の引率に時間がかかり、5月から7月の3ヶ月について昨年度実績を上回っている。また、新型コロナウイルス感染症に係る不測の事態への対応も行わなければならない。</p> <p>改善策：本年度は学級数減と総合学科廃止に伴い教員数が減少したが、部活動の対外活動等については顧問以外の支援に配慮し、校務分掌等についても不測の事態に臨機応変に対応できるように、業務の平準化への意識を高める。</p> <p style="text-align: right;">教頭</p>
	<p>* 毎朝の登校指導 * あいさつ運動</p>	<p>生徒の不注意による遅刻「0」の日数が年間を通して</p> <p>A 80日以上 B 70日以上 C 60日以上 D 60日未満</p>	<p>(9月14日現在) 41日</p>	<p>成果：9月9日時点で目標値の50%を達成することができた。</p> <p>課題：2学期が始まり、達成日数が少ない状況が続いている。</p> <p>改善策：2学期中旬にあるグッドマナーキャンペーンを皮切りに、生徒指導、生徒会役員、保護者などと連携し登校指導での声掛けを通して、生徒にタイムマネージメントの重要性を啓発していきたい。</p> <p style="text-align: right;">生徒指導</p>

